

吹田市こども計画等策定に係る子育て支援ニーズ調査結果 (速報版)

1. 調査の目的

「吹田市こども計画等」に定める各項目及び子ども・子育て支援事業計画上の需要の見込みを設定するうえでの基礎資料とするため、住民の子育て支援に関する生活実態や要望等について、アンケート調査を実施する。

2. 調査概要

- 1) 調査地域：吹田市全域
- 2) 調査対象者：
 - 市内在住の「就学前児童」のいる世帯・保護者 3,000人
 - 市内在住の「就学児童（小学生）」のいる世帯・保護者 3,000人
- 3) 調査期間：令和6年2月13日（火）～令和6年3月7日（木）
- 4) 調査方法：住民基本台帳をもとに対象児童のいる全世帯に調査の案内を郵送配布し、WEBにて回答・回収を実施
※対象児童が複数いる世帯は、年齢が一番低いお子さんに郵送配布

3. 調査票の回収結果

アンケート種別	配布数	有効回収数	有効回収率
就学前児童 保護者用調査	3,000票	641件	21.4%
就学児童（小学生1～6年生） 保護者用調査票	3,000票	639件	21.3%

4 調査結果の表示方法

- (1) 回答は各質問の有効回答者総数（N=Number of case）を基数とした百分率（%）で示しています。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。また、0.0%は原則として表示していません。
- (2) 複数回答の設問の場合、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。

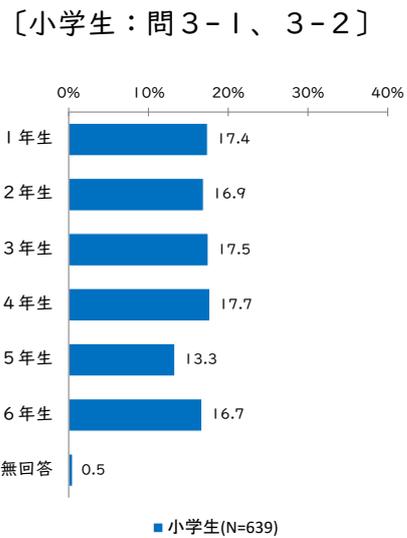
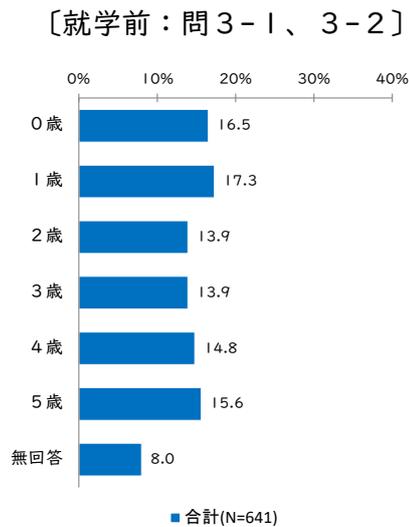
- (3) クロス集計の場合、クロス集計のキー項目では「無回答」は表示していないため、各キー項目の合計と「合計」（有効回答者総数）とは一致していません。
- (4) 就学前児童の年齢は学年齢で表示しています。小学生の学年は令和5年度で表記しています。
- (5) 時刻は24時間制で表示しています。

1. 家族構成や保護者の就労状況について

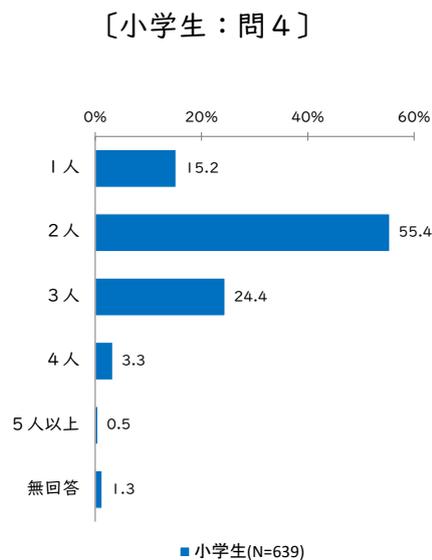
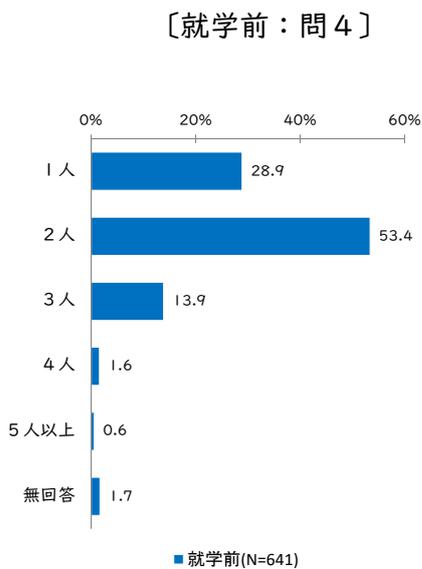
○就学前と小学生では、お子さんの年齢（学年）に大きな差はみられません。

○就学前は「(お子さんの数) 2人」(5割)、小学生は「(お子さんの数) 2人」(6割)となっています。

【お子さんの年齢】



【お子さんの人数】



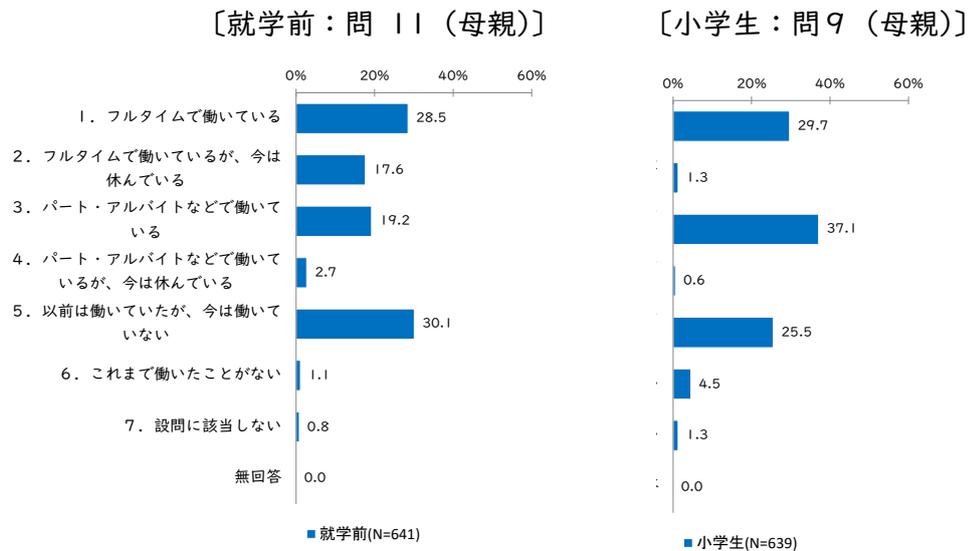
○母親の就労状況をみると、就学前は「フルタイム」（3割）、「パート」（2割）、小学校は「フルタイム」（3割）、「パート」（4割）となっています。

○パート・アルバイトからフルタイムへの転換希望

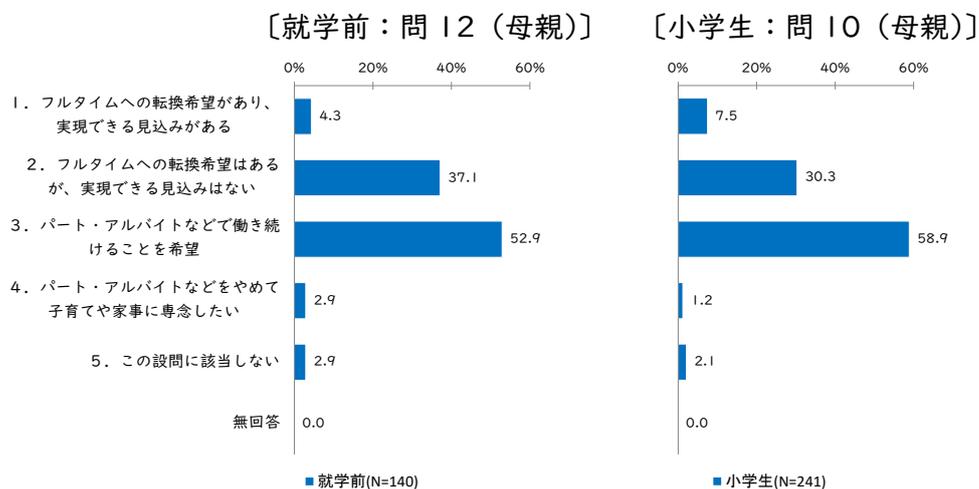
・就学前は「パート・アルバイトなどで働き続けることを希望」（5割）、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」（4割）となっています。

・小学生はパート・アルバイトからフルタイムへの転換希望は、「パート・アルバイトなどで働き続けることを希望」（6割）、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」（3割）となっています。

【現在の就労状況】



【パート・アルバイトの方のフルタイムへの転換希望】

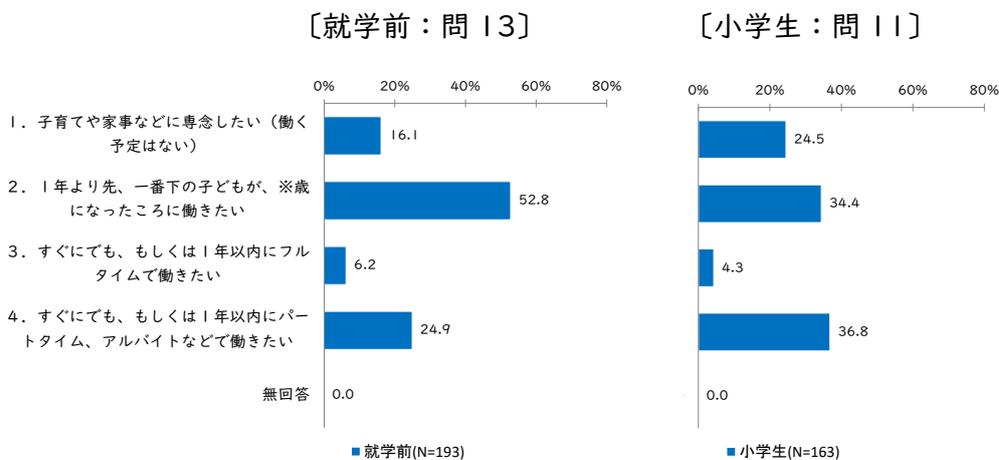


○就労していない方の就労希望

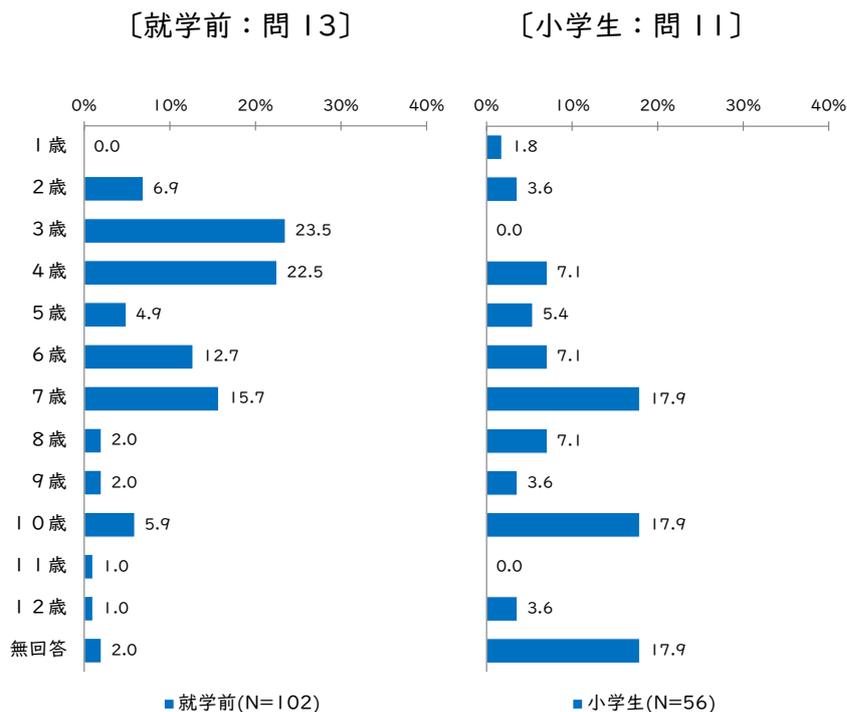
・就学前は「1年より先、一番下の子どもが□歳になったところに就労したい」（5割）と最も高くなってきています。

・小学生は「すぐにでも、もしくは1年以内にパートタイム、アルバイトなどで働きたい」（4割）、「1年より先、一番下の子どもが、※歳になったところに働きたい」（3割）となっており、就労意欲は高くなってきています。

【現在、またはこれまで就労していない方の就労希望】



【「2. 1年より先、一番下の子どもが□（※）歳になったところに就労（働き）したい」】

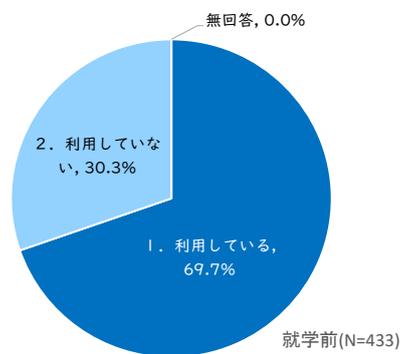


2. 定期的な教育・保育事業の利用について

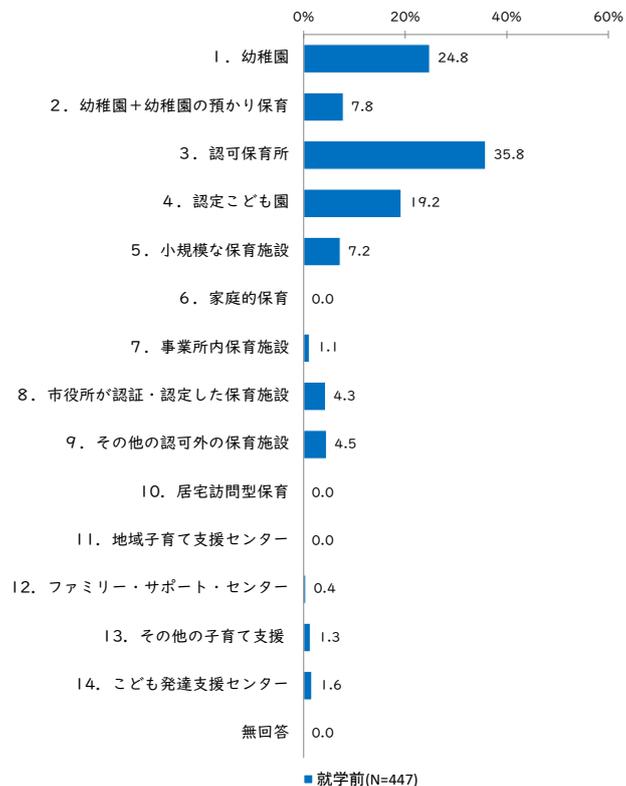
○「(幼稚園や保育所等を定期的に)利用している」(7割)となっています。

○利用している教育・保育事業では、「認可保育所」(4割)、「幼稚園」(2割)、「認定こども園」(2割)となっています。

【定期的な幼稚園や保育所等の利用】〔就学前：問14〕



【平日に利用している教育・保育事業】〔就学前：問14-2〕

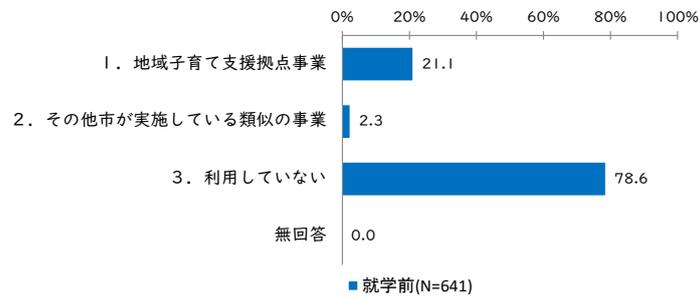


3. 地域子育て支援拠点事業について

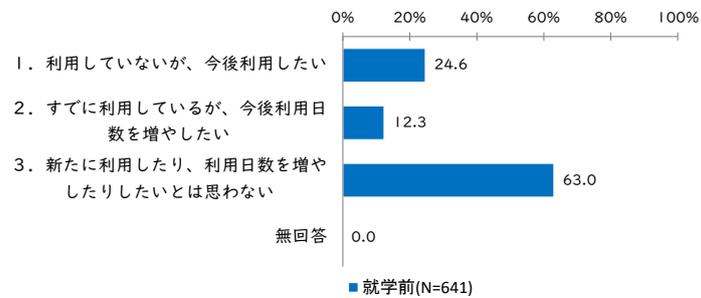
○地域子育て支援拠点事業を「利用している」は2割ですが、「利用していないが、今後利用したい」と「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」をあわせた『利用したい』では4割となっています。

【地域子育て支援拠点事業の利用】

〔就学前：問 30 現在の利用状況〕



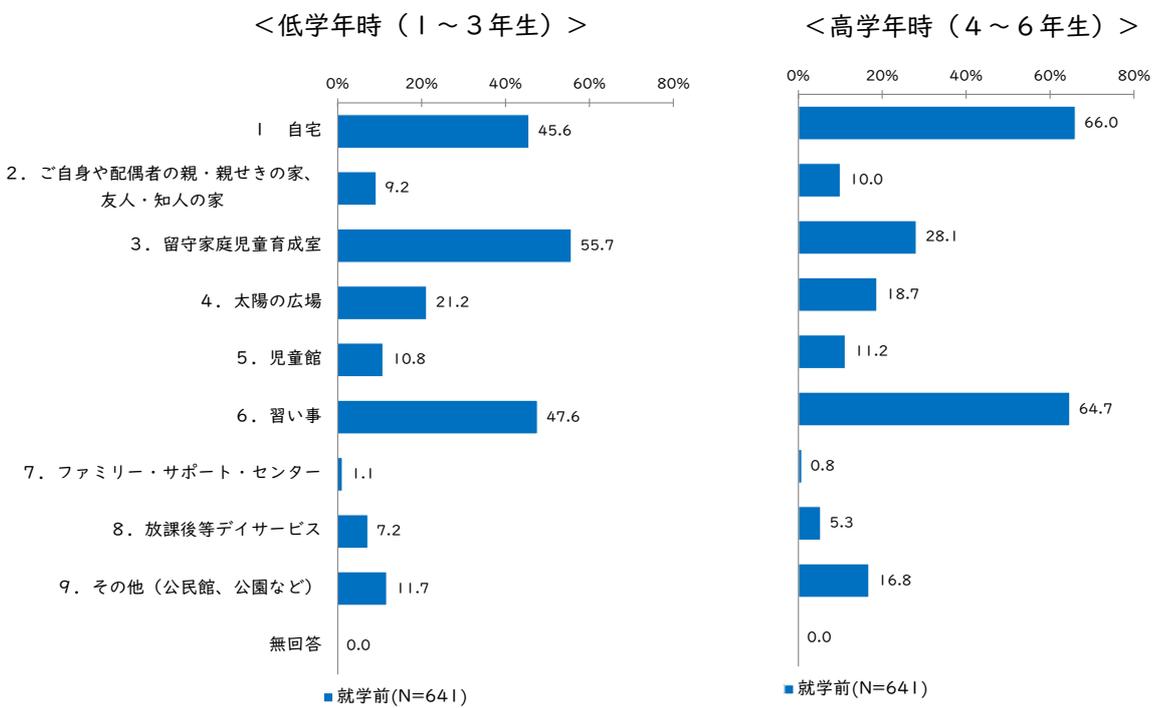
〔就学前：問 31 今後の利用意向〕



4. 放課後の過ごさせ方について

○放課後に過ごさせたい場所については、低学年（1～3年生）の時は、「留守家庭児童育成室」（6割）、「習い事」（5割）、「自宅」（5割）で、高学年（4～6年生）の時には、「自宅」（7割）、「習い事」（6割）、「留守家庭児童育成室」（3割）となっています。

【放課後に過ごさせたい場所】〔就学前：問 23、24〕



5. 育児休業など職場の両立支援制度について

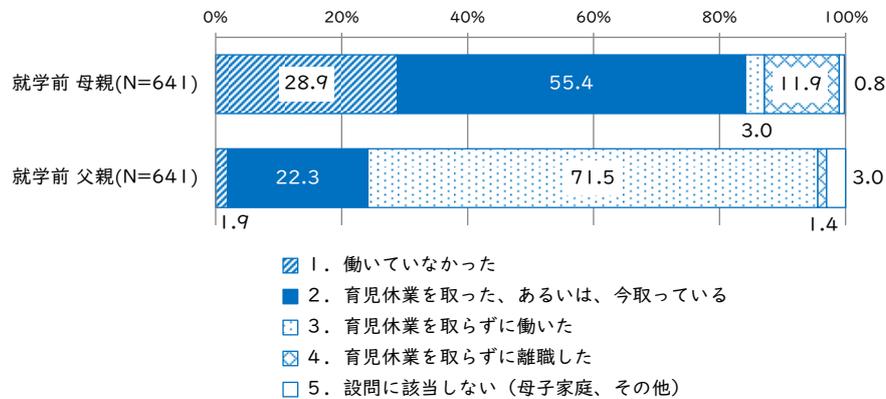
○お子さんが生まれたときに育児休業について

・母親は「取得した」（6割）、「育児休業を取らずに働いた」と「育児休業を取らずに離職した」を合わせた、『取得しなかった』（1割）となっています。

・父親は「取得した」（2割）、「育児休業を取らずに働いた」と「育児休業を取らずに離職した」を合わせた、『取得しなかった』（7割）となっています。

【お子さんが生まれた時の育児休業取得の有無】

〔就学前：問19（母親）、（父親）〕



6. 子育て全般について

○子育ての負担を軽減する子育て支援やサービスについて

・就学前は、「育児用品（紙おむつ、2人乗せベビーカーなど）への経済的支援」（3割）、
「幼稚園や保育所、認定こども園などに通園するのに必要な食材料、日用品、その他諸費用など無償化の対象とならない経費への支援」（3割）、「理由を問わず子どもを一時的に預かってくれるサービス」（3割）となっています。

・小学生は、「塾など習い事への経済的支援」（2割）、「住宅費への支援（家賃補助や住宅ローンの負担軽減など）」（1割）、「衣料品や食料品、日用品など生活必需品への支援」（1割）となっています。

【子育ての負担を軽減する子育て支援やサービスの希望】

[就学前：問 43]

[小学生：問 34]

